



人と人との「繋がり」を農業の肥やしに！

左：井上 清人さん 右：多田 悠也さん

株式会社ジゴボッチャ いのうえ きよと 井上 清人さん

地域農業の若手ホープ

川西町高山地区で令和3年3月に法人化した「株式会社ジゴボッチャ」代表の井上清人さん。井上さんは県外の大学で工学を学び、企業への就職を考えていたが、農家である父親の「自分の代で農業をやめたくない」という想いを受けて親元就農を決心した。やるからには「農家で社長を目指そう！」と地区内外で様々な活動に挑戦してきた。特に農協青年部では置賜地域や山形県のリーダーとして様々な役職を歴任しており、現在は若手農業者の相談役として頼られる存在になっている。

2人ならやれる！

共に法人を立ち上げた多田さんとは農協青年部で知り合った。独立を視野に入れ始めた頃、「一番になれるのは清人さんだと思うから、一緒に農業をやりたい！」と声をかけられたことがきっかけで、法人化に至った。

社員は2人だが、忙しい時期は家族や友人が力を貸してくれる。非農家の友人が手伝いに来てくれる理由は「楽しい」から。みんなで歌いながら田植えをしたり、作業の打ち上げをしたり、楽しめる雰囲気大事にしている。

「ジゴボッチャ」ってどういう意味？

置賜地域の方言で「お腹がいっぱい動けない様子」のこと。

井上さんが会社名を考えていた際に、多田さんからこの方言を聞き、その意味から『美味しい作物をお腹いっぱい食べてもらい、周りを幸せにできる会社にしよう！』と会社名に採用しました。



若手との、地域との『繋がり』

農業を営む上で、何よりも「人との繋がり」が大切だと話す井上さん。

地域の後輩から相談を受ける中で、彼らは「できない」のではなく「知らない」のだと感じるようになった。新規就農を指そうと思っただけで、誰にどんな相談をしたら良いのか分からず悩んでいる人もいた。井上さんは、そうしたやる気があるのに立ち止まっている後輩に対し「頼れる人がいる」環境を整えたいと様々な活動を始めた。自身が研修で得た知識や人脈をもとに、後輩たちの学びのために研修会や若手農業者の交流会などを開催し、「農業の味方」を増やすための架け橋となっている。



ジゴボッチャのメンバー
～アルバイトの2人と～



やる気あふれる仲間とともに
大規模農家のもとで研修



作業の合間の1コマ
いつでも楽しく農作業

また、若手だけでなく「ベテラン」の存在も大切だ。井上さん自身も世代交代を経験したものの、忙しい時期は父親の存在が心強い。現役を引退した多田さんの祖父も、田んぼに水を引く際に、近隣農家との調整役を担ってくれている。世代交代してからも、ベテランのスキルを活かしながら農業に関わり続けてほしいと話す。

井上さんは今後の方針として、農家同士の「協力関係」を大切にしながら、**みんなで川西町全域の農地を守っていききたい**と考えている。ジゴボッチャでは、ライスセンターの建設や地区外での耕作面積の拡大など、計画的に規模拡大を進めていく予定だ。

井上さんは山形県内での地区よ

りも先駆け、草刈り隊を立ち上げた。住んでいる地区の青年会では、お祭りの運営や雪下ろしボランティアなどを行っていたが、活動の機会が少なかったため、定期的に集まる意味を見出そうと「草刈り隊」を結成し活動を開始。地域の人から要望を受けた場所の草刈りを行う。こうした草刈り隊の活動も、地域の仲間との繋がりをつくる場となっている。

／ 様々な職業の仲間と活動しています！ ／

